

沖縄断酒会の大城盛一氏(77)が、長年にわたり受刑者に酒害教育を実施し、その更生保護に尽力したとして、「法務大臣賞」を受賞しました。30年にわたる断酒人生の原点が当院であると語られ、妻の和子氏と共に受賞の報告に来院されました！

沖縄県断酒会の大城盛市氏 法務大臣賞受賞の喜びを稲富院長に報告



第二の人生は

清明病院から

稲富 この度は法務大臣賞の受賞、おめでとうございます。

大城 ありがとうございます。沖縄刑務所の所長室で法務大臣賞を頂いたので、今日は、先生にぜひ見て頂こうと思ひまして、お電話させてもらったんです。私の第二の人生は、ここ清明病院から始まったので。

稲富 入院されていたのは、いつ頃でしたか？

大城 平成元年です。酒を止めて、今年で丁度三十年になりましたね。入院中に美空ひばりさんが亡くなったのを覚えていいます。彼女もアルコールの問題があった人でした。

私は平成元年七月に退院してから三十年間、この病院に通い続けていますよ。月に四回、毎週月曜日に「清明断酒会」をやっているの。(笑)

稲富 それは、表彰もされますね！(笑)

飲酒がらみの 受刑者を支援

稲富 刑務所の方も、ずっと行かれていたんですか？

大城 刑務所は、行くようになって、大体二十年くらいになりますね。ある時、刑務所の所長から電話がありまして、酒がらみの収容者が多いから困ってる、どうしたものかと相談されたんです。実際、収容者の四十六％は、酒がらみで事件を起こしているんです。そこで、刑務所に毎月訪問するようになりました。今は三カ月に一度、断酒会で行っていますよ。

稲富 外国みたいに法律を変えてくれればいいんですけどね。確か、アメリカでは刑務所に入る代わりに、断酒会やAAに行かせる、という刑罰がありますね。

大城 飲酒運転を三回したら、自助Gに行かないと、免許を更新しないと聞いたことがあります。

稲富 実際にアルコール依存症の方が違反者に話をしないと、こうした飲酒問題は変わりませんからね。

大城 沖縄でも、那覇市の福祉課では、アルコール依存症者に保護費を支給するときに、断酒会の印鑑をもらうようにしたことがあります。そうしないと、アル中は保護費を全部飲んで使っちゃうから、死んでしまいますよ。せめて、自助Gには行かせないと！

稲富 福祉課は担当者がよく代わるので、こうしたことを続けるのが難しいようですね。沖縄県の飲酒問題の解決に向けて、ぜひ続けて頂きたいですね。

あらゆる酒害者に

支援の手を

大城 先生、今のアルコール依存症は、昔とは大分変わったんじゃないですか？若返っている感じですか？

稲富 昔ながらの依存症の方、暴れるタイプは少なくなりましたね。

大城 僕が入院していたころは、すごい人がいましたよ。窓から飛び降りちゃって、垣根に引っかかっていた女性がいましたよ。(笑)

稲富 今は、そういう人は少ないですね。社会が飲酒に対して厳しくなってますし、会社の飲み会自体も減ってますから。全体的に大人しくなっているというか、連続飲酒の人が少なくなってます。軽い人か、逆にボロボロの人で、真ん中の人が少ない気がします。

稲富 仁

(いなとみ ひとし)

糸満清明病院理事長／院長

大城 女性の依存症も難しいですね。妻に世話役をさせて、アメシストを立ち上げたんですけど、最初は反対が多かったですよ。

でも、女性の依存症者も何とか救えないかと思ひまして。これまでに女性の分科会があつたんですけど、自助Gを立ち上げたのは、全国で沖縄が最初だと思います。

今回は、刑務所での活動で表彰されたわけですが、これも清明病院があつてのことです。ぜひ、賞状をお見せしたくて伺いました。

稲富 当院の卒業生が表彰されたと聞いて、とても嬉しく感じます。これからも、沖縄の飲酒問題の解決のために、共に頑張ってください。今日は、ありがとうございました。



大城 盛市

(おおしろ せいいち)

平成元年に当院退院後、精力的に断酒会設立に従事。夫婦で力を合わせ、これまでに18の断酒会を設立。平成26年には、長年の酒害教育活動が評価され、沖縄県知事賞も受賞されている。